

2018年ユーロバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2018年7月上旬に開催された欧州最大の自転車展示会ユーロバイク展にも、自振協による共同出展ブースを設け日本企業6社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

本年、第27回目となる自転車展示会、2018年ユーロバイク展(EUROBIKE2018)は、ドイツの南端、フリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、2018年7月8日(日)~10日(火)の3日間、開催された。本年は一般公開日をやめビジネスデーのみとなった。会期中は好天に恵まれたが、来場者数は前年比12.2%減の37,379人と大幅に減少した。

出展社数は前年同様の1,400社であった。そのうちの100社余りが新規参加企業である。国別の出展者でみると、試乗エリアの重複も含まれるが、欧州からはドイツが416社と最多であり、次いでイタリア166社、オランダ54社、フランス49社、スイス43社及び英国39社等。アジアは台湾が271社、中国146社及び日本は19社となり、米国は76社であった。



2018年展示会場の様子(左:ホールA3、右:ホールA1)

主催: メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地: ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期: 2018年7月8日(日)~10日(火) ※ビジネスデー3日間のみ

展示会場及び面積: 13ホール、97,000㎡ ※A3仮設、屋外DEMOエリアは除く

入場者数: ビジネス来場者 96カ国37,379人(昨年101カ国42,590人)

一般来場者 ※本年一般公開無し(昨年22,160人)

出展社数: 52カ国1,400社(昨年50カ国1,400社)

2. 主役は依然として E-MTB

本年の展示会も電動アシスト自転車 (EPAC) 等とその関連部品であふれた。同展オフィシャルサイトによると、2018 年の Pedelecs (EPAC) 出展者数は前年比 22% 増の 161 社と更に増加したが、EPAC よりも補助速度やモータ出力の高い S-Pedelecs は前年より半減近い 76 社となった。今年よりホール A1 は電動自転車 (E-Bikes) に特化した専門ホールとなり、Brose、PENDIX、BionX 及び BAFANG 等の電動ドライブユニットをはじめ、DIAVELO、M1 スポーツ、EBIKE 及び Besv 等の電動自転車メーカー等が集結した。更に同ホールの一角は「Cargo Area」と称し、電動運搬車 (E-Cargo Bikes) の出展者が集まっていた。一方、欧州市場の電動ドライブの筆頭といえるボッシュ (BOSCH) や TranzX 等は従来のホール A5 にとどまった。また、B5 ホールではシマノが STEPS を展示し、当協会ブースにはヤマハが参加する等、数多くの電動ドライブユニットの出展者が場内でみられ、欧州市場における市場競争は現在も続いている。

図表 1: Pedelecs (電動アシスト自転車) 等の出展者数推移 (単位: 社)

出展車種	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
E-bikes	30	47	76	110	101	156	158	176	195	-	-	
Pedelecs	15	23	30	52	55	88	82	83	84	109	132	161
S-Pedelecs										23	133	76

※2016 年より「Pedelecs」と「S-Pedelecs」に分類変更

EPAC の車種別で見ると、MTB タイプの EPAC (E-MTB) の出展者数は前年 7% 増の 93 社となり、各ブースでも新商品の E-MTB が多く見られ、EPAC の中では依然、E-MTB が主役である。E-MTB は昨年より下パイプ内部にバッテリーを収納したフレームが各社のハイエンド (高価格帯) モデルを中心に多くなったが、その傾向は今年も続いた。このフレームスタイルはバッテリーの大型化や容量増を目指したものと思われるが、シティ車・トレッキング車タイプの EPAC 等にも広がりを見せ、各社の高価格帯モデルを中心に今後の EPAC 全般の主流のスタイルになる可能性もある。一方、従来のパイプ上部や荷台等にバッテリーを外付けするスタイルも中・低価格帯モデルを中心に健在であり、価格帯やモデルによって使い分けるメーカーが多い。



バッテリー収納フレームの E-MTB① (左: M1 スポーツ、右: ベルガモント)



バッテリー収納フレームの E-MTB②（左下：コナ、右：カワサキ）

E-MTB に次ぐ新たな電動自転車を探る動きとして、ロードバイクの電動車（E-ロードバイク）やジュニア E-MTB 等のほか、特に運搬用の E カーゴバイクは、ホール A1 内に専門エリアを設ける等、同車種に対する業界の期待の大きさが伺える。因みにアクセルグループが最近 E カーゴバイクのブランドを傘下に加えたばかりである。しかしながら、E-ロードバイクは E-MTB のような広がりはまだ見られず、E カーゴバイクは現在、配達等の商業利用が中心とみられ、個人にどこまで浸透するのかが普及のカギとみられる。

近年の E-MTB の過熱ぶりを見てスポーツ車ブランドも電動自転車市場に参入を始めているが、米国のコナ (KONA) が E-MTB とともに数年ぶりに復活した。イタリアの自動車メーカー・マセラッティの名を冠した E-MTB や E-ロードバイク等のスポーツ車タイプの電動車も出展され、オートバイのブランドであるカワサキの E-MTB 等も見られた。更にご当地の有力自動車部品メーカーの ZF が電動ドライブユニットを出展する等、自動車業界等の他業種からの電動自転車市場への進出も見られた。



E-ロードバイク（左：マセラッティ、右：ラピエール）

フレームカラーについては、ここ数年多く見られた派手なネオンカラー（蛍光色）の商品は減少傾向にあり、艶消し黒やグレー系のフレームカラーが更に多くなってきた。それに加えて緑系の色も商品の中に加えられるようになってきた。今ではスポーツ車を中心に、全般的

に落ちついたカラーリングの自転車がますます増えている。フレームの色は一定周期で流行りがあるのは必定である。元々ドイツ市場ではシティ車等では黒色が根強い人気であったが、この艶消し黒やグレー等のフレームカラーがこれからのトレンドとして、EPAC やスポーツ車以外も含め、欧州全域に更に広がっていくのか注目したい。



緑系の E-MTB (左 : コガ、右上 : スコット)



グレー系の E-MTB (左 : CONWAYS、右 : HAIBIKE)

3. JBPI 共同出展ブース

本年 16 回目の出展となる自転車産業振興協会 (JBPI) ブースは、展示ホールを A1 から A3 に移し、小間面積は昨年より大きな 135 m²となった。今回は下記図表のとおり、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、(株)ヨシガイ (DIA-COMPE)、(株)ASK TRADING (BOMA)、(株)プロキダイ (AIRFIT)、アウトートップ(株) (SHAKES) 及びヤマハ発動機(株) (YAMAHA) の合計 6 社の日本企業が共同出展した。

JBPI ブースの位置するエリアは、A3 ホールのメイン会場奥の仮設エリアに位置しており、アジア系の出展者が多く集まる場所であった。当ブースではペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、ブレーキ及びカーボンフレーム等が出展され、日本の高品質な自転車部品・付属品等が集まる「JAPAN」ブースとして来場者に既に認知されている。昨年に引き続き AIRAFIT の心拍計測機器、SHAKES のブラケットフードも出展され、当ブースの日本製品は来場者の注目を集め、各共同出展者の小間では商談等も活発に行われた。



JBPI 共同出展ブースの様子

図表 2 : 2018 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市靴谷 1738 https://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020 072-884-8030	ヘッドセット、 ブレーキ等
(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820 048-951-5821	自転車、フレーム等
(株)プロキダイ AIRFIT	〒619-0289 京都府相楽郡精華町光台 3-5 NICT OpenLab 1L http://www.prokidai.co.jp	0774-66-5224 0774-66-5223	心拍計測機器
アウトートップ(株) SHAKES	〒106-0031 東京都港区西麻布 3-3-3 http://www.shakes.tokyo	03-6459-2828 03-6459-2524	ブラケットフード
ヤマハ発動機(株) YAMAHA	〒438-8501 磐田市新貝 2500 http://global.yamaha-motor.com/business/e-bike-systems/	0538-32-1963 0538-37-4475	電動ドライブユニット

4. 撤退が続く完成車メーカー

今年ドイツの STORCK、STEVENS 及び BBF BIKE、スイスの BMC、イタリアのピアンキ、スロバキアの Kellys Bike、北米のハロー、ロッキーマウンテン、YETI 及び FUJI/Breezer 等の完成車ブランドが EUROBIKE 出展を取りやめた。昨年復活した PON BIKE 傘下のダービーサイクル(ラリー/ユニベガ及びカルクホフ)も再び姿を消した。残念ながら本年も完成車メーカーの撤退が続いた。部品・付属品関係の出展者では、欧州を代表する部品メーカーのカンパニョーロの他、BBB 等が姿を消した。また、毎年、会員向けの大きなブースを構えていた独共同購買組織 BICO も出展していなかった。これからも完成車メーカー等、有力ブランドの撤退が続き、米国のインターバイク展のような状況とならないか注視したい。

本年5月の段階で展示ホールはすべて埋まったと主催者は報じていたが、現地で各ホールを見て回った印象では、出展者数自体は減少していないものの、完成車メーカー等の大きなブースは減少、或いは面積縮小の傾向にあり、それに代わり新規参加の中小規模のブースが増えている感がある。展示ホールについては、ホールA4の仮設エリア部分は消滅し、中庭のアウトドアエリアもBMXジャンプなどのゾーンが無くなり空き地が広がり、昨年ダービーサイクルの大きな展示ブースがあった東側通路も空白が目立った。更には今年もツェッペリンホールは使われず、明らかに展示総面積は減少している。



空きが目立つエリア（左：中庭アウトドアエリア、右：東側通路）

5. 来年の日程

本年の開催前に来年2019年は7月31日から8月3日の4日間となることが早々に発表されたが、展示会終了直後の7月17日に主催者より通知があり、次回の2019年会期は9月4日～7日の4日間に変更された。

7月初旬は会期としてふさわしくなかったのか、今回は来場者が大幅減となり、この結果を踏まえ、主催者は7月末から更に会期をずらす決断をした。海外からの出展者からは、ビジネスデー3日間への集中は概ね歓迎されたと思われるが、EPACブームに沸くドイツでは消費者に新商品を訴求する場も必要とされたのか、一般公開日を含む従来の日程に戻すよう多くの要望があったことも十分に想像できる。

また、現地のポーデン湖周辺地域にとって、7月は夏季の観光シーズンの最中であり、宿泊手配の関係でも9月開催の方が望ましいことは明らかである。この日程変更は主催者の素早い柔軟な対応ともいえるが、近年、同展は会期が毎年変わり、それに振り回される出展者の負担は決して小さくはない。

以上

※写真はすべて筆者撮影（同展取材登録済）